

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1- : 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

本校は1学年5学級である。一般科目を担当する専任教員は25名(人文学系13名,基礎学系12名)であり,高等専門学校設置基準第6条(資料3-1--1)に基づき配置されている。

人文学系の一般科目を担当する専任教員は,13名,非常勤教員は21名である(資料3-1--2)。人文学系科目は本校の準学士課程における「1.人間形成,3.コミュニケーション能力」を主に達成するために設置されている科目である。専任教員の教育機関職務年数平均は18年,非常勤教員は8年である。「1.人間形成」では,国語や体育,社会,美術,音楽等の人間性の基礎となる教養科目があり,これらは専任教員の専門分野については専任教員が担当し,他分野については非常勤教員が補っている。また,「3.コミュニケーション能力」にかかわる国語(現代国語)等の重要科目は低学年を専任教員が担当し,高学年を教職歴・専門性ともに適した非常勤教員が担当している。英会話やドイツ語,中国語等の科目では,ネイティブスピーカーの外国人教員が非常勤教員として配置されている。

基礎学系(数学・物理学・化学等)の一般科目を担当する専任教員は12名,非常勤教員は5名である(資料3-1--3)。基礎学系科目は本校の準学士課程における「2.科学技術の修得」を主に達成するために設置されている科目である。専任教員の教育機関職務年数平均は18年,非常勤教員は6年である。理数科目は,専門科目を修得するために基礎となる科目であるため,特に重要な低学年では専任教員が全ての基礎学系科目を担当している。

「3.コミュニケーション能力」「4.創造性」を養う一般科目として,本校の特色でもある第3学年の一般特別研究がある。これは,専任の一般科目教員が,各自の専門性を活かした内容の講座を開き,学生が各講座のテーマに沿った研究内容を進め,論文作成や口頭発表等をする科目である。

資料3-1--1

### 高等専門学校設置基準

(第6条)高等専門学校には,学科の種類及び学級数に応じ,各授業科目を教授するために必要な相当数の教員(助手を除く。以下この条において同じ。)を置かなければならない。

2 教員のうち,第16条に規定する一般科目を担当する専任者の数は,次の各号に上げる数を下ってはならない。

- 一 入学定員に係る学生を1の学級に編制する場合は,10人
- 二 入学定員に係る学生を2の学級に編制する場合は,12人
- 三 入学定員に係る学生を3の学級に編制する場合は,14人
- 四 入学定員に係る学生を4の学級から6の学級までに編制する場合は,14人に3学級を超えて1学級を増すごとに4人を加えた数
- 五 入学定員に係る学生を7以上の学級に編制する場合は,26人に6学級を超えて1学級を増すごとに3人を加えた数

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3 - 1 - - 2 ( 1 / 2 )

## 2005年度 人文学系 教員・一般科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	教育機関 職務年数	最高学位
教授	中村俊昭	英語 B	1	37	教育学士
		一般特別研究	3		
教授	平安隆雄	歴史	2	29	文学修士
		技術と社会	3		
		一般特別研究	3		
教授	五十嵐讓介	国語(現代国語)	1,2	28	文学修士
		国語(古文)	2		
		一般特別研究	3		
		国文学特論	5		
教授	室井美稚子	英語 A	1	29	修士(教育学)
教授	荒木英彦	英語演習	3	22	文学士
		ドイツ語	3		
		一般特別研究	3		
助教授	篠村朋樹	保健体育	1,2,5	21	修士(体育学)
		一般特別研究	3		
助教授	小澤健志	英語 A	2	20	教育学修士
		一般特別研究	3		
助教授	清野哲也	保健体育	1,2,4	16	体育学修士
助教授	柴田育子	【在外研究員】		14.5	修士(文学)
助教授	坂田洋満	保健体育	1,2 4,5	10	修士(体育学)
助教授	加藤達彦	国語(現代国語)	1,2	10	博士(文学)
		国語(古文)	2		
		一般特別研究	3		
講師	岩崎洋一	英語 A	2	6	修士(教育学)
		英語 B	2		
講師	武長玄次郎	歴史	1	1	博士(経済学)
		技術と人間	3		
		経済学	4		

## 資料3 - 1 - - 2 ( 2 / 2 )

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	教育機関 職務年数	最高学位
講師	竹内直人	国語(現代国語)	3	3	文学修士
講師	小林美鈴	国語(現代国語)	3,4	21	学士
講師	小嶋洋輔	国語(古文)	1,2	0.3	博士(文学)
講師	石田隆至	社会学	4	3.3	修士(社会学)
講師	今山正幾	人文地理	1	9	修士(文学)
講師	川元豊和	人文地理	1,3	19	博士(地理学)
講師	魚谷雅広	哲学	5	0.3	修士(文学)
講師	清水幸雄	法学	5	30	法学修士
講師	間宮郁子	人類学	5	0.5	博士(学術)
講師	太田潤一	心理学	5	3.5	学士
講師	Russell Keith	英会話	3	4	MA(Chinese) BS(Math)
		英会話	4		
		英会話	5		
講師	Allan Doyle	英会話	4	2	BS(Geology)
		英会話	5		
講師	蒲原順子	英語演習	3	0.1	修士(文学)
		総合英語演習	4		
		総合英語演習	5		
		英語特論	5		
講師	千葉健	ドイツ語	3	2	博士(文学)
講師	Frank-Peter Riesner	ドイツ語	4	10	学士
		ドイツ語	5		
講師	冀子武	中国語	4	11	修士(理学)
		中国語	5		
講師	久場里志	保健体育	3	1	修士 (武道・スポーツ)
講師	宮原祐徹	保健体育	3	1	修士 (スポーツ健康科学)
講師	高寄三朗	美術	1	24	修士
講師	垣浪恵美子	音楽	1	8	修士(音楽)
講師	大野敬代	日本語	3	4	修士(教育学)
		日本語	4		
		日本語	5		

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

## 2005 年度 基礎学系 教員・一般担当科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位
教授	田村和士	物理学	38	理学修士
		一般特別研究		
教授	高遠節夫	代数幾何	22	理学修士
		数学特論		
教授	高橋邦夫	基礎科学	35	博士(工学)
		物理学		
教授	鎌田 勝	解析	25	理学博士
		一般特別研究		
教授	相川正美	基礎化学	16	理学博士
		一般特別研究		
助教授	吉井文子	基礎化学	17.9	家政学修士 博士(学術)
助教授	関口昌由	基礎数学 . . .	14	博士(理学)
		代数幾何		
		解析 .		
		日本事情		
助教授	福地健一	物理学	16	教育学修士 博士(工学)
		一般特別研究		
助教授	山下 哲	解析	11	博士(理学)
		一般特別研究		
助教授	鈴木道治	基礎数学 . . .	13	理学修士
		解析		
		一般特別研究		
助教授	金子真隆	基礎数学 .	7	博士(数理科学)
		数学演習 B		
		一般特別研究		
助教授	大塚浩史	基礎数学 .	8	博士(理学)
		数学演習 A		
		一般特別研究		

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位
講師	齋藤純一	解析	8	修士(教育学)
講師	長 新人	解析	9	修士(教育学)
講師	竹並紀幸	解析	0.3	博士(理学)
講師	平山明彦	生物学	29	歯学博士
講師	藤岡導明	地学	1	博士(理学)

(出典 2005 年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級であり、25人の専任教員が配置されており、設置基準を満たしている。

一般科目は本校の教育目的を達成するために設置されている科目である。これらの科目を担当する教員は、専任・非常勤ともに専門性や教育歴を考慮した適切な配置となっている。また、低学年の授業において、教育の核となる授業科目には重点的に専任教員が配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点3 - 1 - : 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専門5学科(機械工学科, 電気電子工学科, 電子制御工学科, 情報工学科, 環境都市工学科)の専任教員数は52名(助手8名を含む)であり, 高等専門学校設置基準(資料3 - 1 - - 1)に基づき教員配置がなされている。本校専任教員は人文・基礎学系を合わせて77人である。うち, 専門5学科の教授・助教授(39人)が占める割合は約51%である(資料3 - 1 - - 2)。専門科目は本校の教育目的「2. 科学技術の修得, 4. 創造性」を達成するために必要な科目であり, 科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。各学科の教員・専門科目一覧を資料3 - 1 - - 3 ~ 7に示す。専門科目担当の非常勤教員は37名である。一般科目と同様に, 低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。これらの資料から, 科目内容と担当教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。一方, 電気電子工学科を例にとると, 電気回路や電気磁気学, 情報処理等の専門基礎科目は, 必ずしも専門分野と一致していないが, 5学科の教員における修士以上の学位取得率は88%, 非常勤教員では91%であり, 専門基礎科目を教授する資質を十分持っている(資料3 - 1 - - 8)。また, 企業・公共団体の実務経験のある専門専任教員の割合は50%, 非常勤教員は70%であり, 実務にも明るい教員が多い。教員の前歴については人事書類を出典とするため, 現地閲覧資料2として提示する。

資料3 - 1 - - 1

### 高等専門学校設置基準

(第6条) 高等専門学校には, 学科の種類及び学級数に応じ, 各授業科目を教授するために必要な相当数の教員(助手を除く。以下この条において同じ。)を置かなければならない。

3 教員のうち, 工学に関する学科において第16条に規定する専門科目を担当する専任者の数は, 当該学校に1の学科をおくときは, 8人, 2以上の学科をおくときは8人に1学科を超えて1学科を増すごとに7人を加えた数を下ってはならない。この場合において, 1学科の入学定員に係る学生を2以上の学級に編制するときは, これらに1学級を超えて1学級を増すごとに5人を加えるものとする。

(第7条) 高等専門学校には, 演習, 実験・実習または実技について補助させるために必要な相当数の専任の助手を置かなければならない。

(第8条) 専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数は一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の2分の1を下ってはならない。

(出典 高等専門学校設置基準)

## 2005年度 専任教員一覧

人文学系		機械工学科		電子制御工学科	
教授	中村俊昭	教授	大藤晃義	助教授	臼井邦人
教授	平安隆雄	教授	黒田孝春	助教授	大橋太郎
教授	五十嵐讓介	教授	高橋秀雄	助教授	泉 源
教授	室井美稚子	教授	石出忠輝	講師	岡本峰基
教授	荒木英彦	助教授	内田洋彰	助手	坂元周作
助教授	篠村朋樹	助教授	鈴木久夫	情報工学科	
助教授	小澤健志	助教授	小田 功	教授	増田重史
助教授	清野哲也	講師	板垣貴喜	教授	天摩勝洋
助教授	柴田育子	助手	林田和宏	教授	栗本育三郎
助教授	坂田洋満	助手	黄野銀介	助教授	東 雄二
助教授	加藤達彦	電気電子工学科		助教授	小林 暁
講師	岩崎洋一	教授	小平真次	助教授	和崎浩幸
講師	武長玄次郎	教授	熊谷勝彦	助教授	和田州平
基礎学系		教授	石川雅之	助教授	丸山真佐夫
教授	田村和士	教授	大澤 寛	講師	齋藤康之
教授	高遠節夫	教授	上原正啓	助手	米村恵一
教授	高橋邦夫	助教授	柏木康秀	助手	大枝真一
教授	鎌田 勝	助教授	石井孝一	環境都市工学科	
教授	相川正美	助教授	岡本 保	教授	黒川章二
助教授	吉井文子	講師	飯田聡子	教授	石田博樹
助教授	関口昌由	助手	吉崎静男	教授	高橋克夫
助教授	福地健一	助手	浅野洋介	教授	大木正喜
助教授	山下 哲	電子制御工学科		教授	佐藤恒明
助教授	鈴木道治	教授	角田幸紀	助教授	石川雅朗
助教授	金子真隆	教授	高上輝雄	助教授	上村繁樹
助教授	大塚浩史	教授	橘川五郎	助教授	鬼塚信弘
		教授	鴫田正俊	講師	青木優介
		助教授	鈴木 聡	助手	高石斌夫

(出典 2005年度高等専門学校教員表より抜粋・編集)

資料3 - 1 - - 3 ( 1 / 3 )

2005年度 機械工学科 教員・専門担当科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	大藤晃義	材料力学	3	材料学 材料強度学 ハイエンジニアリング	35	工学博士
		設計製図	3			
		工業英語	4			
		新素材	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	3,4			
		卒業研究	5			
		機械工作実習	3			
教授	黒田孝春	機構学 / 論理回路	4	レーザー加工 生産工学 ロボット工学 システム	27	博士(学術)
		機械工学概論	1			
		工学実験	1,2			
		卒業研究	5			
		製作実習 / 図学製図	2			
		電気工学実験	5			
		マイコン制御	5			
教授	高橋秀雄	材料力学	4	機械要素 (歯車・ベルト等)	20	博士(工学)
		図学製図	2			
		設計法	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	2,3			
		卒業研究	5			
		製作実習	3,4			
教授	石出忠輝	流体力学	5	流体力学	16	工学修士
		水力学	4			
		計算力学	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	3,4			
		卒業研究	5			
		工学演習	5			
助教授	内田洋彰	情報処理	1	制御工学 ロボット工学	15	博士(工学)
		自動制御	4			
		自動制御	5			
		ロボット工学	5			
		工業力学	2			
		機械工学概論	1			
		電気工学実験	5			
		工学実験				
		卒業研究	5			

## 資料 3 - 1 - - 3 ( 2 / 3 )

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	鈴木久夫	機械工作法	3	摩擦・摩耗・潤滑 大気環境 太陽エネルギー スターリングエンジン	36	工学士
		熱力学 / 製作実習	4			
		設計製図	4			
		設計工学	5			
		機械工学概論	1			
		工学実験	1,3,4			
		卒業研究	5			
		工学演習	4			
助教授	小田 功	情報処理	1	光応用計測	6.5	博士(工学)
		情報処理	2			
		計測工学	3			
		製作実習	5			
		センサ工学	5			
		人工知能	5			
		設計製図	3			
		機械工学概論	1			
		工学実験	2,3,4			
		卒業研究	5			
日本事情	3					
講師	板垣貴喜	情報処理	2	機械振動	9	修士(工学)
		情報処理	3			
		機械工学概論	1			
		工業力学	2			
		工学演習	4			
		工学実験	2,3,4			
		卒業研究	5			
		機械力学	5			
		シークス回路	5			
日本事情	3					
助手	林田和宏	機械工学概論(補助)	1	熱流体工学 燃焼工学 レーザ応用計測	1	博士(工学)
		工学実験(補助)	2,3,4			
		卒業研究(補助)	5			
助手	黄野銀介	工学実験(補助)	1-4	一般・特殊加工 精密機械要素設計	0.5	博士(学術)
		卒業研究(補助)	5			
教授	田村和土	応用物理	4	地球物理学	38	理学修士
教授	高遠節夫	応用数学 A	4	数学教育	21	理学修士
助教授	福地健一	応用物理	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)
助教授	山下 哲	応用数学 B	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学 C	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	大塚浩史	応用数学 D	4	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)



## 資料3 - 1 - - 3 ( 3 / 3 )

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理	5	解析力学	17	理学修士
講師	松山隼也	材料学	3	材料工学・料利用工学 伝熱工学・熱力学	-	博士(工学)
		材料学	4			
		伝熱工学	5			
講師	新倉雅樹	電気回路	3	生産システム	11	工学修士
		電子回路	3			
		数理計画法	4			
講師	大森扶美樹	材料力学	3	機械設計	2	博士(工学)
		機械力学	4			
		設計法	4			
		アクチュエータ学	5			
講師	黄野銀介	機械工作法	4	一般・特殊加工 精密機械要素設計		博士(学術)
講師	古山幹雄	熱機関	5	熱機関	6	博士(工学)
講師	太田匡則	流体機械	5	流体力学	-	修士(工学)
講師	西村秀和	制御工学	5	制御工学	-	工学博士
講師	住本大吾	弾塑性学	5	弾塑性学	-	博士(工学)

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3 - 1 - - 4 ( 1 / 2 )

2005 年度 電気電子工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	小平眞次	電気磁気学	3	通信工学 超伝導デバイス	38	工学修士
		電気電子工学実験	5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		情報通信	4			
教授	熊谷勝彦	コンピュータ工学	1-4	コンピュータ工学	35	工学士
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		日本事情	3			
教授	石川雅之	電子回路	4	アナログ電子回路 フィルタ	24	博士(工学)
		回路網理論	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	2,4,5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
教授	大澤 寛	電気機器	4	パワーエレクトロニクス	19	工学修士
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	4,5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		コンピュータ実習	3			
		パワーエレクトロニクス	5			
教授	上原正啓	自動制御	4,5	電気磁気学 電磁界理論 電磁波工学	18	博士(工学)
		電気回路	2			
		電気電子工学概論	1			
		工学基礎演習	2			
		電気電子製図	3			
		機械工作実習	3			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
助教授	柏木康秀	電気回路	3	電力工機材	10	博士(工学)
		高電圧大電流工学	4			
		送配電工学	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3,5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		日本事情	4			
助教授	石井孝一	電気磁気学	2	高周波工学	34	工学士
		電気計測	3			
		高周波工学	4			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	4,5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		情報通信	5			
助教授	岡本 保	電子工学	3	半導体工学	15	博士(工学)
		電気電子材料	5			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	2,5			
		課題研究 / 卒業研究	4,5			
		電子デバイス	5			

## 資料 3 - 1 - - 4 ( 2 / 2 )

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	飯田聡子	電気回路	4	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士(工学)
		情報処理	1			
		情報処理演習	3			
		電気電子工学概論	1			
		電気電子工学実験	3			
		課題研究/卒業研究	4,5			
助手	吉崎静男	工学基礎演習(補助)	2	回路工学	36	準学士
		電気電子製図(補助)	3			
		電気電子工学実験(補助)	2-4			
		課題研究/卒業研究(補助)	4,5			
助手	浅野洋介	工学基礎演習(補助)	2	ロボティクス 制御工学	1	修士(工学)
		電気電子製図(補助)	3			
		電気電子工学実験(補助)	2-4			
		課題研究/卒業研究(補助)	4,5			
教授	高橋邦夫	応用物理	4	レーザー-応用光計測 光物性	35	博士(工学)
助教授	福地健一	応用物理	3	光応用計測	16	教育学修 博士(工学)
		応用物理	4			
助教授	山下 哲	応用数学C	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学B	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	金子真隆	応用数学A	4	位相幾何学	7	博士(数理学)
助教授	大塚浩史	応用数学D	5	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理	5	解析力学	17	理学修士
講師	小松順麿	電磁気学	4	高周波工学	6	修士(工学)
講師	山崎賢一	エネルギー発生工学	4	火力発電所におけるメ ンテナンス 天然ガス掘削業務	-	修士(工学)
講師	南方英明	電子回路	5	ロボット工学	8	修士(工学)
講師	古山幹雄	システム工学	5	熱機関	6	博士(工学)
		機械工学概論	5			
講師	長沼大介	情報工学	5	情報理論 音響工学	14	工学修士
講師	土居信之	電気設計	5	電気機器	18	工学士
講師	栗原伸吾	電力工学	5	電力工学	4	

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3 - 1 - - 5 ( 1 / 2 )

## 2005 年度 電子制御工学科 教員・専門担当科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	角田幸紀	電磁気学	2	電磁解析 アンテナ動作解析 アンテナ設計	34	工学博士
		電磁気学	3			
		卒業研究	5			
教授	高上輝雄	材料力学	3	精密機械工学 制御工学	39	工学博士
		材料力学	4			
		機械制御入門	1			
		実験実習	-			
		卒業研究	5			
教授	橘川五郎	電気回路	3	集積回路工学 電子回路応用	6	博士(工学)
		電気回路	4			
		実験実習	-			
		卒業研究	5			
教授	鍋田正俊	ロボット工学	5	制御工学 ロボティクス	19	博士(工学)
		制御工学	4			
		制御工学	5			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助教授	鈴木 聡	電子工学	3	半導体物性	22	博士(工学)
		電子工学	4			
		情報処理	3			
		卒業研究	5			
助教授	臼井邦人	電子回路	4	電子工学 コンピュータネット ワーク	15	工学修士
		電子回路	5			
		プログラミング技法	2			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
		総合演習	4			
助教授	大橋太郎	計測工学	3	制御工学 機械工学	12	修士(工学)
		制御工学	4			
		電子計算機	4			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助教授	泉 源	【内地研究員】		アンテナ・電波伝搬	10	学士(工学)
講師	岡本峰基	製図	2	制御工学 機械力学	2.5	博士(工学)
		機械力学	3			
		総合演習	3			
		工学概論/実験実習	-			
		卒業研究	5			
助手	坂元周作	工学概論/実験実習(補助)	-	超電導工学	1	博士(工学)
		プログラミング技法(補助)	2			
		卒業研究(補助)	5			
教授	田村和士	応用物理	4	地球物理学	38	理学修士
助教授	福地健一	応用物理	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)

## 資料 3 - 1 - - 5 ( 2 / 2 )

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	山下 哲	応用数学C	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学B	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	金子真隆	応用数学A	4	位相幾何学	7	博士(数理科学)
助教授	大塚浩史	応用数学D	5	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	小松直樹	応用物理	5	解析力学	17	理学修士
		電子材料	5			
講師	大森扶美樹	設計工学	4	機械設計	2	博士(工学)
		精密工学	5			
講師	小松順磨	電子計算機	2	高周波工学	6	修士(工学)
講師	酒井智弥	工業解析	4	計算機科学	3	博士(工学)
		制御機器	5	視覚情報学 波動工学		
講師	古山幹雄	熱流体力学	5	熱機関	6	博士(工学)
講師	杉山賢司	システム工学	5	制御工学 システム工学	-	PhD(工学)
講師	清水弘幸	情報工学	5	数値シミュレーション 精密計測制御 超音波	33	工学博士
講師	呂 健明	計算機制御工学	5	信号処理工学 制御計測工学 システム設計工学	15	工学博士
講師	椎名達雄	光応用光学	4	-	-	-

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料 3 - 1 - - 6 ( 1 / 2 )

## 2005 年度 情報工学科 教員・専門担当科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	増田重史	情報通信システム	5	ミリ波超高速通信 光ファイバ通信 伝送システム	4	博士(工学)
		電磁気学	3			
		実験・実習	3			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
教授	天摩勝洋	シミュレーション工学	5	シミュレーション モデリング 解析力学	29	工学修士
		数理計画法	5			
		論理回路	2			
		制御工学	4			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
教授	栗本育三郎	コンピュータアーキテクチャ	4	光脳機能信号処理 情報処理 人工現実感	18	工学修士
		ソフトウェア設計	4			
		実験・実習	1,4			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
助教授	東 雄二	電子計算機	3	電子計算機 計測システム構築	31	工学士
		人工知能	4			
		半導体工学	4			
		ドキュメント書法	4			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
助教授	小林 暁	電子計算機	4	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 学術博士
		コンピュータシステム	4			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
助教授	和崎浩幸	電気回路	3	ニューラルネットワークの アログ VLSI 化	18	工学修士
		電子回路	4			
		オペレーティング・システム	4			
		コンピュータ制御工学	5			
		実験・実習	2			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
		日本事情				
助教授	和田州平	データ構造アルゴリズム	3	解析学 (作用素論) 知的検索システム	13	博士(理学)
		プログラミング演習	3			
		情報数学	3			
		情報理論	5			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
		日本事情				
助教授	丸山真佐夫	コンピュータ演習	1	並列処理 クラスタ並列計算 機システム	10	博士(工学)
		コンピュータ入門	1			
		オブジェクトプログラミング	4			
		実験実習	4			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			
講師	齋藤康之	プログラミング言語	2	画像工学 画像解析・処理	5	博士(情報科学)
		プログラミング演習	2			
		工業英語	4			
		画像情報システム	5			
		課題実験 / 卒業研究	4,5			

## 資料 3 - 1 - - 6 ( 2 / 2 )

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助手	米村恵一	実験・実習(補助)	1-4	ヒューマンインタフェース 画像処理 認知科学	2	博士(工学)
		データ構造アルゴリズム(補助)	3			
		プログラミング演習 2(補助)	3			
		課題実験 / 卒業研究(補助)	4,5			
助手	大枝真一	プログラミング言語(補助)	2	ニューラルネットワーク 知能システム	1	博士(工学)
		プログラミング演習 (補助)	2			
		実験・実習(補助)	2-4			
		コンピュータ演習(補助)	1			
		課題実験 / 卒業研究(補助)	4,5			
教授	高遠節夫	応用数学 A	4	数学教育	21	理学修士
助教授	山下 哲	応用数学 B・C	4	グラフ理論	11	博士(理学)

## 2. 非常勤教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理	3	素粒子理論	3	修士(理学)
		応用物理	5			
講師	小松直樹	応用物理	4	解析力学	17	理学修士
		電磁気学	2			
講師	清水弘幸	計測工学	5	数値シミュレーション 精密計測制御 超音波	33	工学博士
講師	長沼大介	知能システム	5	情報理論 音響工学	14	工学修士
講師	呂 健明	信号処理工学	5	信号処理工学 制御計測工学 システム設計工学	15	工学博士
講師	末石吾朗	分散情報システム	5	プログラミング言語 コンピュータシステム ウェブ指向	19	工学士
講師	松井伸介	情報機器	5	-	-	-

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-7(1/3)

## 2005年度 環境都市工学科 教員・専門担当科目配置表

## 1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	黒川章二	耐震工学	5	コンクリート構造	37	学士
		構造力学	3			
		基礎実験 (材料)	3			
		基礎演習 (構力)	3			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
教授	石田博樹	構造力学	2,4	構造工学	32	博士(工学)
		コンクリート工学	3			
		コンクリート構造	4			
		設計製図 (RC橋)	4			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
教授	高橋克夫	上下水道工学	4	水環境工学	34	工学士
		水環境学	5			
		情報処理入門	2			
		情報処理	3			
		環境計画学	5			
		卒業研究	5			
教授	大木正喜	測量学 / 測量実習	1-3	測量学 河川工学	33	工学修士
		基礎実験 (水理)	4			
		環境都市工学概論	1			
		測量実習	4			
		卒業研究	5			
		日本事情				
教授	佐藤恒明	構造力学	4,5	橋構造 構造解析	17	博士(工学)
		橋構造	5			
		数値解析	4			
		都市工学実験(構造)	5			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
日本事情	2					
助教授	石川雅朗	水理学	3	水工水理学 生態環境工学 水産学	14	博士(水産学)
		基礎演習 (水理)	4			
		水工学	5			
		基礎実験 (水理)	4			
		生態環境工学	4			
		環境都市工学概論	1			
卒業研究	5					
助教授	上村繁樹	水環境学 / 水理学	4	環境衛生工学	8	博士(工学)
		環境工学実験	5			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
		廃棄物管理	5			



## 資料3 - 1 - - 7 ( 2 / 3 )

職名	氏名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	鬼塚信弘	土質力学	3,4	地盤工学 地震工学 地質工学	12	博士(工学)
		基礎演習(土質)	4			
		基礎実験(土質)	4			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
講師	青木優介	図学	1	建設材料	4	博士(工学)
		情報処理入門	1			
		材料学	2			
		基礎実験(材料)	3			
		環境都市工学概論	1			
		卒業研究	5			
助手	高石斌夫	環境都市工学概論 (補助)	1	水処理 廃棄物処理	35	準工学士
		測量実習(補助)				
		環境工学実験(補助)				
		卒業研究(補助)	5			
教授	高遠節夫	応用数学A	4	数学教育	21	理学修士
教授	高橋邦夫	応用物理	4	レーザ-応用光計測 光物性	35	博士(工学)
助教授	福地健一	応用物理	3	光応用計測	16	教育学修士 博士(工学)
		応用物理	4			
助教授	山下 哲	応用数学B	4	グラフ理論	11	博士(理学)
助教授	鈴木道治	応用数学C	4	偏微分方程式論	13	理学修士
助教授	大塚浩史	応用数学D	4	非線形偏微分方程式論	8	博士(理学)

## 資料 3 - 1 - - 7 ( 3 / 3 )

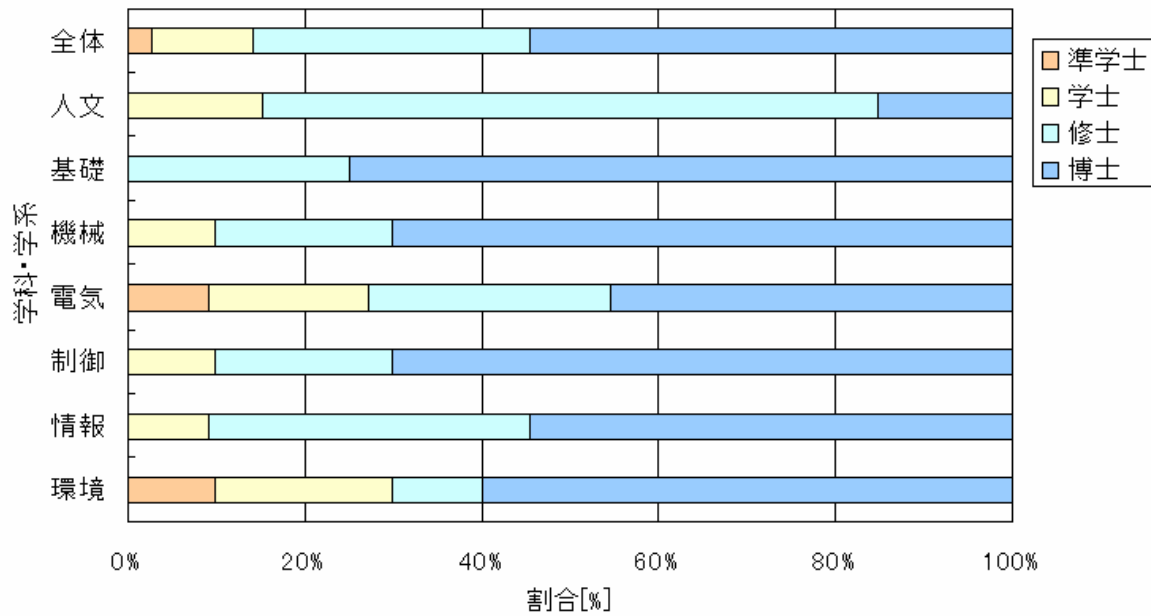
## 2 . 非常勤教員

職名	氏 名	担当授業科目	学年	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
講師	藤田 丞	応用物理	4	素粒子理論	3	修士(理学)
講師	大河内保彦	設計製図 1 (擁壁)	4	地盤工学	5	博士(工学)
講師	石本弘治	情報処理	4	情報処理		
講師	森田弘昭	環境アセスメント	4	下水道工学		修士(工学)
講師	筒井純一	都市環境工学	5	気象・気候学		修士(工学)
講師	小芝明弘	橋工学	5	橋梁工学		
		都市工学設計製図(鋼橋)	5			
講師	野村幸弘	環境工学概論	5	上下水道工学		修士(工学)
講師	平戸利明	コンクリート構造	5	プレキャストコンクリート橋		
講師	鈴木輝一	地盤工学	5	地盤工学	9	博士(工学)
講師	松井和己	情報処理	5	計算力学 材料力学 構造解析	2	博士(工学)
講師	寺西弘文	地域計画学	5	都市計画学		博士(学術)
講師	小梁川雅	都市交通学	5	道路工学・コンクリート工学	21	博士(工学)
講師	立野恵一	計測通論	5	計測工学		
講師	西野木洋	景観工学	5	景観工学		
講師	河村知徳	防災工学	5	構造地質学		

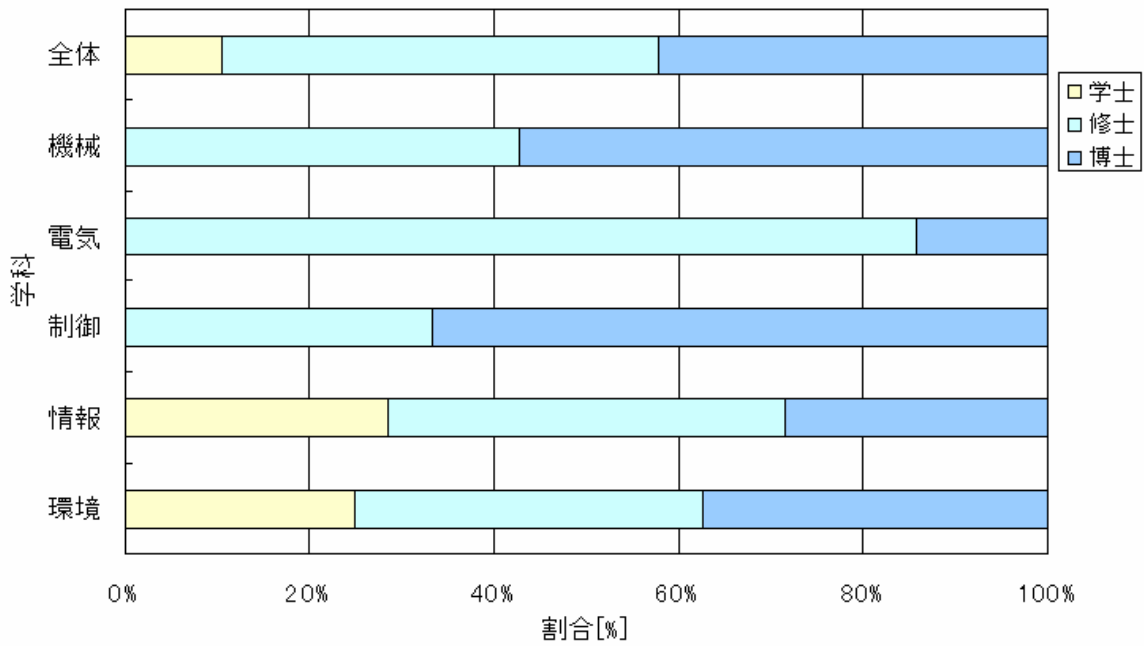
(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3 - 1 - - 8

### 教員の学位取得状況



### 専任教員の学位取得状況



### 非常勤教員の学位取得状況

(出典 2005年度高教員個人データより抜粋・編集)

## (分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級を設置しており、専門の専任教員数は52名(助手を除くと44名)である。高等専門学校設置基準36名を下っておらず、適切な教員配置がなされている。また、本校専任教員のうち専門5学科の教授・助教授が占める割合は51%であり、設置基準第8条を満たしている。

「2. 科学技術の修得」を達成するため、一般科目と同様に、重要な低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。専任教員及び非常勤教員の学位取得の状況から、専門科目を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員及び非常勤教員も多く、実務についても明るい教員が多い。このような多様な専門や経験を持つ教員構成のもとで、実験実習や課題研究・卒業研究等を行うことにより、「4. 創造性」が達成できると考えられる。

以上のことから、本校の教育目的「2. 科学技術の修得」、「4. 創造性」を達成するために必要な専門科目の担当専任教員及び非常勤教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置が行われている。

観点3-1- : 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

## (観点に係る状況)

専攻科共通科目は、専攻科教育目的「1. 人間形成、3. コミュニケーション能力」を達成するのに必要な科目である。また、多分野にわたる専門科目の教授により、得意とする専門分野と他分野の知識と複合する能力を育て、「2. 科学技術の修得と応用」を達成するものである(資料3-1-1)。専攻専門科目は深い専門性の授業、演習・実験・研究科目を通し、本校の教育目的「2. 科学技術の修得、3. コミュニケーション能力、4. 創造性」を達成するために必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。資料3-1-2~資料3-1-4より、科目内容と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。専攻科科目の担当教員は、全て専任教員である。専任教員における博士号取得率は55%であり、専門科目を教授する資質を十分持っている(資料3-1-5)。また、企業・公共団体の実務経験率は38%であり、実務にも明るい教員が多い。教員の前歴に関する資料は人事書類を出典とするため、現地閲覧資料2として提示する。

資料 3 - 1 - - 1

## 2005 年度 専攻科 専攻共通科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	人文	中村俊昭	技術英語	英語評 コミュニケーション指導	37	教育学士
教授	人文	平安隆雄	現代文明と技術者倫理	西洋史・技術教育史	29	文学修士
教授	人文	五十嵐讓介	人間と文化	近世俳諧	28	文学修士
助教授	人文	小澤健志	英語総合	アメリカ文学・アメリカ事 情	20	教育学修士
講師	人文	武長玄次郎	現代文明と技術者倫理	経済学・経済史	1	博士（経済学）
教授	基礎	高橋邦夫	応用物理特論	レーザー-応用光計測 光物性	35	博士（工学）
教授	基礎	鎌田 勝	応用数学特論	数理物理学	25	理学博士
教授	基礎	相川正美	環境化学特論	環境化学	14	理学博士
助教授	基礎	吉井文子	応用化学特論	分子構造活性相関	17.9	家政学修士 博士（学術）
助教授	基礎	山下 哲	応用数学特論	グラフ理論	11	博士（理学）
教授	機械	大藤晃義	バイオメカニクス	材料学 材料強度学 バイオエンジニアリング	35	工学博士
教授	機械	高橋秀雄	材料力学特論	機械要素 （歯車・ベルト等）	20	博士（工学）
教授	電気	石川雅之	回路工学	アナログ電子回路 フィルタ	23	博士（工学）
教授	電気	熊谷勝彦	デジタル回路	コンピュータ工学	35	工学士
講師	電気	飯田聡子	磁性材料工学	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士（工学）
教授	制御	高上輝雄	計測制御システム	精密機械工学 制御工学	38	工学博士
教授	制御	橘川五郎	技術英語 集積回路工学	集積回路工学 電子回路応用	6	博士（工学）
助教授	情報	小林 暁	デジタル信号処理	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 学術博士
助教授	情報	和田州平	数値解析基礎論	解析学 （作用素論）	11	博士（理学）
助教授	環境	上村繁樹	環境工学通論	環境衛生工学	7	博士（工学）

（出典 2005 年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集）

資料 3 - 1 - - 2 ( 1 / 2 )

2005 年度 機械・電子システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職 名	所属	氏 名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教 授	機 械	大藤晃義	破壊力学	材料学 材料強度学 バイオエンジニアリング	35	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	機 械	黒田孝春	生産工学	レーザー加工 生産工学 ロボット工学 ITシステム	27	博士（学術）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	機 械	高橋秀雄	設計工学特論	機械要素 (歯車・ベルト等)	20	博士（工学）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	機 械	石出忠輝	流体力学特論	流体力学	16	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	機 械	内田洋彰	システム制御工学	制御工学 ロボット工学	15	博士（工学）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	機 械	鈴木久夫	特別研究	摩擦・摩耗・潤滑 大気環境 太陽エネルギー スターリングエンジン	36	工学士
			特別実験			
助教授	機 械	小田 功	フォトオプトニクス工学	光応用計測	6.5	博士（工学）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
講 師	機 械	板垣貴喜	トライボロジー	機械振動	9	修士（工学）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助 手	機 械	林田和宏	特別研究(補助)	熱流体工学 燃烧工学 レーザー応用計測	1	博士（工学）
助 手	機 械	黄野銀介	特別研究(補助)	一般・特殊加工 精密機械要素設計	0.5	博士（学術）
教 授	電 気	小平眞次	ミリ波/ミリ波工学	通信工学 超伝導デバイス	38	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
教 授	電 気	熊谷勝彦	デジタル回路	コンピュータ工学	36	工学士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	電 気	石川雅之	電子回路特論	アナログ電子回路 フィルタ	24	博士（工学）
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			

## 資料3 - 1 - - 2 ( 2 / 2 )

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教授	電気	大澤 寛	パワーエレクトロニクス特論	パワーエレクトロニクス	19	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教授	電気	上原正啓	電磁波工学	電気磁気学 電磁界理論 電磁波工学	18	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	電気	柏木康秀	エネルギー工学	電力エレクトロニクス	10	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	電気	石井孝一	特別研究	高周波工学	34	工学士
			特別実験			
助教授	電気	岡本 保	半導体物性	半導体工学	14	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
講師	電気	飯田聡子	特別研究	磁気工学 磁気デバイス 磁性材料	3	博士(工学)
			特別演習			
助手	電気	吉崎静男	特別研究(補助)	回路工学	36	準学士
助手	電気	浅野洋介	特別研究(補助)	ロボティクス 制御工学	1	修士(工学)

( 出典 2005 年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集 )

資料 3 - 1 - - 3 ( 1 / 2 )

## 2005 年度 制御・情報システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職 名	所属	氏 名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
教 授	制御	角田幸紀	通信工学	電磁解析 アンテナ動作解析 アンテナ設計	34	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
教 授	制御	高上輝雄	知能機械工学	精密機械工学 制御工学	39	工学博士
			特別研究			
			特別実験			
教 授	制御	橋川五郎	特別研究	集積回路工学 電子回路応用	6	博士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
教 授	制御	鴛田正俊	創造設計工学	制御工学 ロボティクス	19	博士(工学)
			学習制御			
			特別研究			
			特別実験			
助教授	制御	鈴木 聡	特別研究	半導体物性	22	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	臼井邦人	特別研究	電子工学 コンピュータネット ワーク	15	工学修士
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	大橋太郎	特別研究	制御工学 機械工学	12	修士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
助教授	制御	泉 源	【内地研究員】	アンテナ・電波伝搬	10	学士(工学)
講 師	制御	岡本峰基	システム制御	制御工学 機械力学	2.5	博士(工学)
			特別研究			
助 手	制御	坂元周作	特別研究	超電導工学	1	博士(工学)
教 授	情報	増田重史	情報通信工学	ミリ波超高速通信 光ファイバ通信 伝送システム	4	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	情報	天摩勝洋	シミュレーション特論	シミュレーション モデリング 解析力学	29	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
教 授	情報	栗本育三 郎	画像工学	光脳機能信号処理 情報処理	18	工学修士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	東 雄二	特別研究	電子計算機 計測システム構築	31	工学士
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	小林 暁	ソフトウェア工学	情報工学 制御工学	13.5	工学修士 學術博士
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	和崎浩幸	特別研究	ニューラルネットワークの アナログ VLSI 化	18	工学修士
			特別実験			
			特別演習			



## 資料3 - 1 - - 3 ( 2 / 2 )

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位
助教授	情報	和田州平	特別研究	解析学 (作用素論)	11	博士(理学)
			特別実験			
			特別演習			
助教授	情報	丸山真佐夫	特別研究	並列処理 クラス並列計算機システム	10	博士(工学)
			特別実験			
			特別演習			
講師	情報	齋藤康之	画像工学	画像工学 画像解析・処理	5	博士(情報科学)
			特別研究			
			特別実験			
			特別演習			
助手	情報	米村恵一	特別研究(補助)	ヒューマンインタフェース 画像処理 認知科学	2	博士(工学)
			特別実験(補助)			
			特別演習(補助)			
助手	情報	大枝真一	特別研究(補助)	ニューラルネットワーク 知能システム	1	博士(工学)
			特別実験(補助)			
			特別演習(補助)			

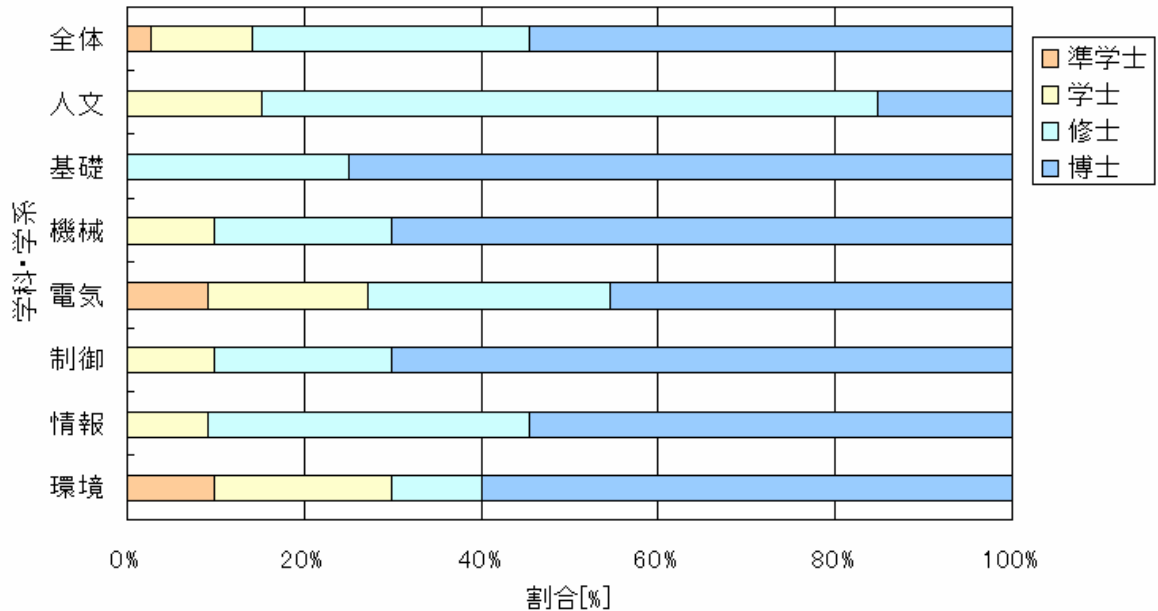
(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

## 2005年度 環境建設工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	教育機関 職務年数	最高学位 (取得年)
教授	環境都市	黒川章二	応用材料工学	コンクリート構造	37	学士
			特別研究			
			特別演習			
教授	環境都市	石田博樹	応用構造工学	構造工学	32	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
教授	環境都市	高橋克夫	環境工学特論	水環境工学	34	工学士
			特別研究			
			特別実験			
教授	環境都市	大木正喜	環境情報・保全	測量学 河川工学	33	工学修士
			特別研究			
			特別演習			
教授	環境都市	佐藤恒明	構造数値解析学	橋構造 構造解析	17	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	環境都市	石川雅朗	環境情報・保全工学	水工水理学 生態環境工学 水産学	14	博士(水産学)
			特別研究			
			特別実験			
助教授	環境都市	上村繁樹	専環境生物工学	環境衛生工学	8	博士(工学)
			特別研究			
			特別演習			
助教授	環境都市	鬼塚信弘	応用地盤工学	地盤工学 地震工学 地質工学	12	博士(工学)
			特別研究			
			特別実験			
講師	環境都市	青木優介	特別研究	建設材料	4	博士(工学)
			特別実験			
助手	環境都市	高石斌夫	特別研究(補助)	水処理 廃棄物処理	35	準工学士

(出典 2005年度高等専門学校教員表および教員個人データより抜粋・編集)

専任教員の学位取得状況



専任教員の学位取得状況

(出典 2005 年度高教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科共通科目は、本校の専攻科教育目的「1. 人間形成, 2. 科学技術の修得と応用, 3. コミュニケーション能力, 4. 創造性」を達成するのに必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。専攻科科目の担当教員は、全て専任教員である。専任教員の学位取得の状況から、専攻科の科目内容を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員及び非常勤教員も多く、実務についても明るい教員が多い。以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な専門科目の担当専任教員について専門分野の整合性が取れた適切な配置が明らかである。

観点3 - 1 - : 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育目的「1．人間形成，3．コミュニケーション能力」を達成するためには，教育及び学生の生活指導に熱意のある教員が必要である。また，「2．科学技術の修得，4．創造性」を達成するためには，採用が必要な学科・学系と候補者の専門分野の整合性が必要である。本校では，教員組織の活動をより活発化するため，上記の条件を満たすような教員採用が行われ，広く各方面から人材を求める公募を行っている。資料3 - 1 - - 1 (1 / 2) では，数学の教員を公募している。資料3 - 1 - - 2 より，採用を必要としていた基礎学系では，30代の教員数が少ない。よって，応募資格では「採用時30歳程度の者」と年齢を制限し，当該学系における均整ある年齢構成を配慮している。また，応募資格(2)，(3)や提出書類の内容，面接等から，専門性や教育・学生生活指導に関して本校に適した人材を確保する配慮を行っている。また，資料3 - 1 - - 1 (2 / 2) では応募資格に実務経歴を条件付けている。資料3 - 1 - - 3 に教員性別構成を示す。2001年度には1名だった女性教員は2005年度には4名となっており，女性教員の採用も積極的に行われている。資料3 - 1 - - 5 に示す通り，専任教員における博士号取得率は55%である。2005年度には，電子制御工学科助教授が学位取得のため，国立大学へ機構内地研究員として1年間研修を行った。また，電気電子工学科助手1名が学位取得のため，2005年度から国立大学博士後期課程に社会人枠で修学している。これらの学位取得に対し，時間割調整等を配慮し支援している。外国人教員は準学士課程外国語科目において非常勤教員4名を任用している（資料3 - 1 - - 4，資料3 - 1 - - 5）。

本校では，2004年度より教職員顕彰を行っている。これは，教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教員に対して行われるものである（資料3 - 1 - - 6 ~ 8）。

資料3 - 1 - - 1 (1 / 2)

2005 年度公募資料

木高専庶発第 47 号  
平成18年1月13日

関係大学長・学部長・研究科長  
関係機関長 殿

木更津工業高等専門学校長  
河上 恭雄 (公印省略)

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 採用職名・人員 講師 1名
2. 所 属 一般教育(基礎学系)
3. 専門分野 数学
4. 担当科目 高専本科における数学及び応用数学, 専攻科における応用数学特論
5. 応募資格 (1) 採用時において30歳程度の者  
(2) 博士の学位を有する者または採用時まで博士の学位を取得見込みの者  
(3) 教育・研究および学生の生活指導に熱意のある者
6. 採用予定日 平成18年4月1日
7. 提出書類 (1) 履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)  
(2) 教育研究業績書(著書, 論文, 報告等で指定様式または様式任意)  
(3) 著書・論文等の別刷(コピー可, 主要なもの3編程度)  
(4) 研究業績概要(A4版, 2000字程度, 様式任意)  
(5) 教育, 研究および学生指導に対する抱負(A4版, 2000字程度, 様式任意)  
(6) 所属長(または指導教員)の推薦書またはこれに準ずるもの
8. 選考方法 第1次選考(書類選考), 第2次選考(面接)  
面接に関わる旅費等は, 応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成18年2月8日(水)(必着)
10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1  
木更津工業高等専門学校長 宛  
1 封筒の表に「数学教員応募書類在中」と朱書き, 「簡易書留」で送付のこと。  
2 原則として, 提出された書類等の返却はいたしません。
11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」  
～省略～  
「その他事務的なこと」  
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3 - 1 - - 1 ( 2 / 2 )

2005 年度公募資料

木高専庶務第11号  
平成17年5月16日

関係大学長・学部長  
関係機関長 殿

木更津工業高等専門学校長  
河上 恭雄(公印省略)

教員の公募について(依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

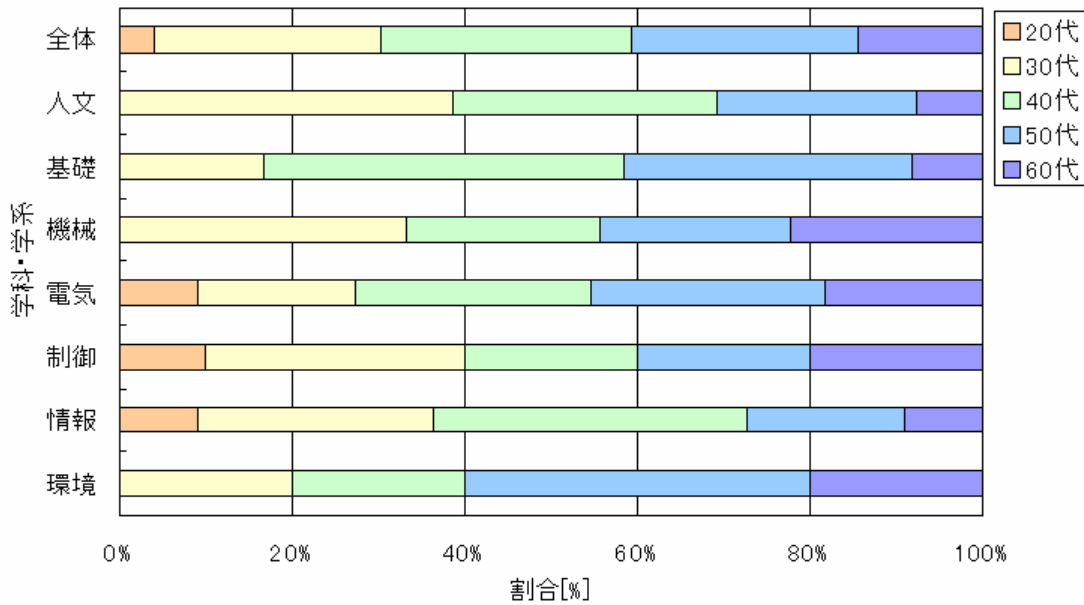
記

1. 採用職名・人員 助手1名
2. 所 属 機械工学科
3. 専門分野 材料・加工関連分野
4. 担当科目 機械工学実験等
5. 応募資格 (1)年齢40歳以上50歳以下の者(平成17年10月1日現在)  
(2)博士の学位を有する者または採用時までに博士の学位を取得見込みの者  
(3)5年以上の企業勤務経験のある者  
(4)高専の教育, 研究に情熱をもち, 学生指導にも理解と熱意のある者
6. 採用予定日 平成17年10月1日
7. 提出書類 (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)  
(2)教育研究業績書(著書, 論文, 特許, 報告等で指定様式または様式任意)  
(3)著書・論文等の別刷(コピー可, 主要なもの3編程度)  
(4)研究業績概要(A4版, 2000字程度, 様式任意)  
(5)教育, 研究および学生指導に対する抱負(A4版, 2000字程度, 様式任意)  
(6)推薦書(推薦者の氏名, 所属と応募者との関係を記載)
8. 選考方法 第1次選考(書類選考), 第2次選考(面接)  
面接に関わる旅費等は, 応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成17年6月30日(必着)
10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1  
木更津工業高等専門学校長 宛  
1 封筒の表に「機械工学科教員応募書類在中」と朱書し, 「簡易書留」で送付のこと。  
2 原則として, 提出された書類等の返却はいたしません。
11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」  
～省略～  
「その他事務的なこと」  
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3 - 1 - - 2

### 教員年齢別構成

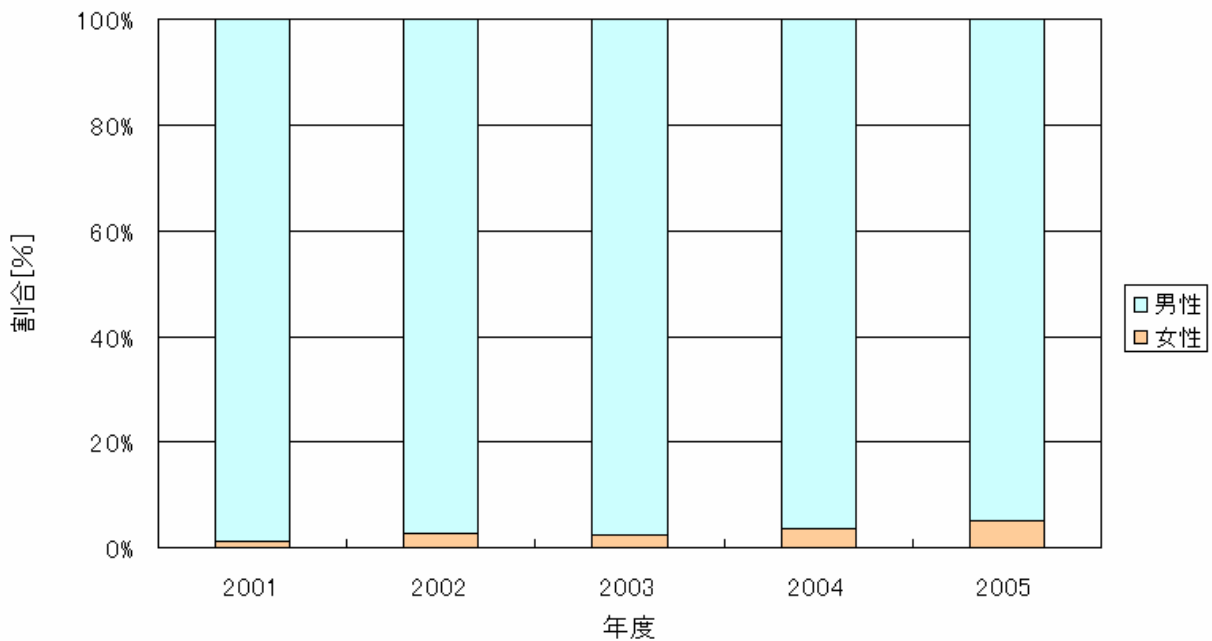


教員年齢構成

(出典 2005年度高専教員個人データより抜粋・編集)

資料3 - 1 - - 3

### 教員性別構成



(出典 職員録・教員個人データより抜粋・編集)

資料3 - 1 - - 4

## 2005年度 外国人教員任用状況

1. 専任教員：なし

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	教育機関 職務年数	最高学位 (取得年)
講師	Russell Keith	英会話	4	MA(Chinese)(1987) BS(Math)(1985)
		英会話		
		英会話		
講師	Allan Doyle	英会話	2	BS(Geology) (1981)
		英会話		
講師	Frank-Peter Riesner	ドイツ語	10	学士 (1990)
		ドイツ語		
講師	冀子武	中国語	11	修士(理学) (1993)
		中国語		

(出典 2005年度教員個人データより編集・抜粋)



資料3 - 1 - - 5

## 外国人教員担当科目シラバス

授 業 科 目	英会話 I		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	3年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド			
関 連 科 目	英語演習、英会話Ⅱ、英会話Ⅲ		
担 当 教 員	(Keith Russell)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師室のメールボックスに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		

授 業 科 目	英会話Ⅱ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択必修 2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド			
関 連 科 目	英会話Ⅰ、英会話Ⅲ		
担 当 教 員	(Alan Doyle)		
連絡先(オフィス・アワー)	非常勤講師室のメールボックスに連絡事項を記したメモを入れておくこと。		

授 業 科 目	ドイツ語Ⅱ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4学年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	聞き取り練習、発音練習、会話表現、応答練習		
関 連 科 目	ドイツ語Ⅰ		
担 当 教 員	(フランク リースナー)		
連絡先(オフィス・アワー)	■■■■@■■■■.jp		

授 業 科 目	中国語Ⅰ		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	必修選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4年全学科・通年	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	中国語、漢語、現代漢語、語学、会話		
関 連 科 目			
担 当 教 員	冀子武		
連絡先(オフィス・アワー)	■■■■@■■■■.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		

(出典 2005年度シラバスより抜粋)

## 木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則

(趣旨)

第 1 条 木更津工業高等専門学校の組織的な運営の改善に資するため、教職員の顕彰を行うこととし、顕彰については、この規則の定めるところによるものとする。

(顕彰の対象者等)

第 2 条 顕彰の対象となる者は、校長及び事務部長を除く、本校に勤務する全教職員（非常勤の職員を含む。）とする。なお、組織及び任意団体等も顕彰の対象とする。

(顕彰の対象活動)

第 3 条 顕彰の対象となる活動は、以下の 4 分野におけるものとする。

- (1) 教 育：授業・課外活動・学生支援等において、顕著な教育効果を上げたと認められる活動
- (2) 研 究：研究において、顕著な業績を達成したと認められる活動
- (3) 学校運営：学校運営・学校経営において、顕著な貢献をしたと認められる活動
- (4) 地域連携：地域連携において、顕著な貢献をしたと認められる活動

(被顕彰者等の推薦)

第 4 条 被顕彰者等の推薦は、被顕彰者等に関係する者及び委員会等が、別紙様式 1 の「教職員顕彰候補者等推薦書」を校長に提出することにより行う。なお、自薦も可とする。また、推薦は随時受け付けるものとする。

(被顕彰者等の選考)

第 5 条 被顕彰者等の選考は、次に掲げる者の意見を聴取し、校長が決定する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員より校長が指名した若干名。
- (2) 校長が必要と認めた若干名

(顕彰の方法)

第 6 条 顕彰は、校長が被顕彰者に表彰状及び副賞を授与することにより行う。

(顕彰の時期)

第 7 条 顕彰は、毎年 3 月に行う。

(事務)

第 8 条 顕彰に関する事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

( 出典 木更津工業高等専門学校規則集 391 頁 )

資料 3 - 1 - - 7

## 教職員顕彰候補者推薦書

平成 年 月 日

木更津工業高等専門学校長 殿

推薦者等 \_\_\_\_\_ 印

## 教職員顕彰候補者等推薦書

木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則第 4 条に基づき，下記の者等を顕彰候補として適切と認め，推薦します。

## 記

分 野	(1) 教 育 (2) 研 究 (3) 学校運営 (4) 地域連携
候補者名等	
推 薦 理 由	
添付資料等	

## 記入上の注意

- (1) 「分野」に関しては，該当分野を で囲むこと。
- (2) 組織等が候補である場合は，全構成員を記した上，代表者を明記すること。
- (3) 「推薦理由」は具体的に記し，その詳細が分かるような資料を添付すること。
- (4) 当推薦書を含む関係書類等の提出先は庶務課人事係とする。

( 出典 木更津工業高等専門学校規則集 392 頁 )

資料3 - 1 - - 8 ( 1 / 2 )

## 教職員顕彰結果通知1

平成17年6月8日

教職員各位

校長 河上 恭雄

平成16年度木更津高専教職員顕彰者について

このことについて、平成17年3月25日付けで表彰者氏名、所属及び表彰分野をお知らせしたところですが、表彰理由を付しておりませんでしたので、改めて下記のとおりお知らせします。

## 記

表彰者氏名	所 属	表彰分野	表 彰 理 由
大藤 晃義	機械工学科	研 究	日本の抱えている大問題の一つである高齢者の増加とハンディキャップを有する障害者に着目することにより、介護・福祉医療に対する工学の積極的な貢献を提唱し、その実践的な研究を進め学会賞を受賞した。また、地域福祉との共同研究に向けてリーダーシップを発揮すると共に、学会の役員としても重職にある。
平安 隆雄	人文学系	学校運営	学生主事として学校運営にあたり、特に、管理優先となりがちな学生指導において、学生の自主性を尊重し、学生の目の高さで学生に接し、本校伝統の明るい学生生活をさらに発展させた功績が大である。また、近隣高等学校との定期的な情報交換会を発足させ、学生指導の地域協力にも貢献した。

(出典 2004年度教職員顕彰通知)

資料3 - 1 - - 8 ( 2 / 2 )

## 教職員顕彰結果通知2

平成18年3月31日

教職員各位

校長 河上 恭雄

平成17年度木更津高専教職員顕彰者について

このことについて、「木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則」に基づき選考を行ない、本校における教育、研究、学校運営及び地域連携活動において顕著な功績を上げた者として、本年度は下記の者を表彰しましたのでお知らせします。

## 記

表彰者氏名	所 属	表彰分野	表 彰 理 由
角田 幸紀	電子制御工学科	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育改革が進む中、教務主事（副校長）として学校運営に尽力し、専攻科設置、校舎新営・改築の計画と実施、独立行政法人への移行、JABEE 認定対応など本校の発展に多大な貢献をした。</li> <li>・国際的教育の面において、海外で教育指導を行い、指導国から研修生を受け入れるなど、海外の工学教育発展に尽力、本校の国際交流に貢献した。</li> </ul>
黒川 章二	環境都市工学科	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE 認定（・認証評価）推進委員長に就任。平成17年度 JABEE 認定審査において良好な審査結果を得るなど本校の運営に多大な貢献をした。</li> <li>・寮務主事として学校運営及び学生の生活指導に多大な貢献をした。</li> <li>・企業との共同研究を積極的に進め、その成果を学生教育、地域貢献、後進の指導に役立てた。</li> </ul>

(出典 2004年度教職員顕彰通知)

## （分析結果とその根拠理由）

本校の教育目的を達成するために、応募資格や提出書類の内容における年齢、教育、研究、実務等の条件を配慮し、採用を行っている。その結果、均衡のとれた年齢構成となっている。また、女性教員が少ない状況であったが、近年の採用により、教員の性別構成は改善されてきている。教員の博士号取得者は55%である。2005年度は、2名の教員が学位取得に向けて活動しており、時間割調整等を配慮し支援している。外国人教員も4名（非常勤教員）を任用している。また、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に贈られる教職員顕彰を行っている。

以上のような教員組織の構成への配慮、支援、任用状況より、本校では教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が執られていると考える。

観点3-2- : 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

## （観点に係る状況）

資料3-2--1に高等専門学校設置基準を示す。本校における教員採用及び昇任に関する選考方法は、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている（資料3-2--2）。資料3-2--3に採用における公募書類を示す。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点において、本校の採用では資料3-2--3に示すように、応募資格（4）に採用基準を示し、提出書類（5）及び面接において採用の判断を下している。また、研究に関しては提出書類（2）～（4）を求めており、候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

昇任候補者の選考に関しても同様に資料3-2--2に示されるように明示されている。昇任候補者選考における資料として資料3-2--4を示す。高専着任後の教育業績は同資料、～及び、欄に明記される。研究業績についても著書論文一覧及び著書論文等の概要を明示する。これらの資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

採用・昇格に関して教育上の能力を評価する詳細なプロセスを含む事例資料は、人事係資料であるため、現地閲覧資料3として提示する。

### 高等専門学校設置基準

- (第 11 条) 教授となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。
- 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者。
  - 二 学位規則（昭和 28 年文部省令第九号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者。
  - 三 大学（短期大学を含む。以下に同じ。）又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者。
  - 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者。
  - 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められた者。
  - 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。
- (第 12 条) 助教授となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。
- 一 前条各号のいずれかに該当する者
  - 二 大学又は高等専門学校において教授、助手又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者。
  - 三 修士の学位又は学位規則 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者。
  - 四 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められた者。
  - 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。
- (第 13 条) 講師となることのできるものは、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- 一 第 11 条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
  - 二 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者。
  - 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。
- (第 14 条) 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- 一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号を（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
  - 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者。

（出典 高等専門学校設置基準）

## 木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規

## (趣旨)

第 1 条 本校専任教員の転任、退職又はその他の事由により本校専任教員の採用又は昇任を必要とする場合における採用候補者及び昇任候補者の選考手続きについては、法令又は別に定めるものの他、この内規の定めるところによる。

## (教員採用・昇任候補者選考会議)

第 2 条 校長の諮問に応じて、教員の採用候補者又は昇任候補者の選考について校長に助言するため、教員採用・昇任候補者選考会議（以下「選考会議」という。）を置く。選考会議は、校長、教務主事、学科・学系主任をもって構成し、校長が主宰する。

## (候補者の選考方法)

第 3 条 校長は、採用候補者選考の事由が生じたときは、あらかじめ、関係学科・学系主任に対し、候補者に係る専門分野、職名、その他の要件の提示を求め、候補者の選考方法について審議するため、選考会議を召集するものとする。

2 前項の審議において、学内での昇任により補充することが可能であると思われる場合には、昇任候補者に係る次の各号に掲げる書類を当該学科・学系主任から提出させ、選考会議で選考し、校長が昇任者を決定する。

- (1) 昇任候補者推薦書
- (2) 教員選考個人調書
- (3) 著書・論文等一覧
- (4) 著書・論文等の概要

3 前 2 項の審議において、公募による候補者の選考を行うこととした場合は、選考会議において公募要件を決定し公募を行う。この場合、広く各方面から人材を求めることを原則とする。なお、本校の専任教員は、学科・学系主任を通して、候補者を推薦することができるものとする。

(1) 候補者の選考は、所定の期限までに推薦された候補者について、選考会議で公募要件に定めた書類による一次審査を行う。この場合、候補者が少数である場合等については、一次審査を省略することができるものとする。

(2) 一次審査後、校長、教務主事、当該学科・学系主任及び校長が必要と認めた者による面接を行い、この面接結果を基に選考会議で候補者を選考し、校長が採用者を決定する。

## (転任又は退職の申出)

第 4 条 この内規の実施を円滑に行うため、本校の専任教員は自己の都合で転任又は退職をしようとする場合は、あらかじめ 6 ヶ月前までに校長に申し出ることを原則とする。

## 附 則

この内規は、昭和 57 年 10 月 28 日から施行する。

## 附 則

この内規は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 369 頁)



資料3 - 2 - - 3

## 教員公募資料

木高専庶務第11号  
平成17年5月16日関係大学長・学部長  
関係機関長 殿木更津工業高等専門学校長  
河上 恭雄(公印省略)

## 教員の公募について(依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

## 記

1. 採用職名・人員 助手1名
2. 所 属 機械工学科
3. 専門分野 材料・加工関連分野
4. 担当科目 機械工学実験等
5. 応募資格 (1)年齢40歳以上50歳以下の者(平成17年10月1日現在)  
(2)博士の学位を有する者または採用時まで博士の学位を取得見込みの者  
(3)5年以上の企業勤務経験のある者  
(4)高専の教育、研究に情熱をもち、学生指導にも理解と熱意のある者
6. 採用予定日 平成17年10月1日
7. 提出書類 (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆、写真貼付)  
(2)教育研究業績書(著書、論文、特許、報告等で指定様式または様式任意)  
(3)著書・論文等の別刷(コピー可、主要なもの3編程度)  
(4)研究業績概要(A4版、2000字程度、様式任意)  
(5)教育、研究および学生指導に対する抱負(A4版、2000字程度、様式任意)  
(6)推薦書(推薦者の氏名、所属と応募者との関係を記載)
8. 選考方法 第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接)  
面接に関わる旅費等は、応募者の負担といたします。
9. 応募期限 平成17年6月30日(必着)
10. 書類送付先 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1  
木更津工業高等専門学校長 宛  
1 封筒の表に「機械工学科教員応募書類在中」と朱書し、「簡易書留」で送付のこと。  
2 原則として、提出された書類等の返却はいたしません。
11. 問い合わせ先 「教育・研究に関すること」  
～省略～  
「その他事務的なこと」  
～省略～

(出典 庶務課人事係資料)

資料3 - 2 - - 4 ( 1 / 3 )

採用・昇任選考資料

教員選考個人調書

〒

採用・昇任の別	昇任	学 科	
		学 系 名	
①ふりがな 氏 名	男・女 (昭和 年 月 日生 歳)	現住所	
採用又は昇任後の 職名(学科名等)	② ( )	④ 発令希望年月日	平成 年 月 日
現職(学科名等)	③ ( )		
⑤ 担当授業科目名	採用昇任後担当 科 目	⑥ 最終学 歴 高専・短大・大卒以後	平成 年 月
	現在担当科目	⑦ 学 位 ・ 称 号	
⑧ 教歴及び職歴の概要	(常勤) 年 月~ 年 月 (年)	⑨ 資格免許状	
		⑩ 教 歴 及 び 職 歴 の 年 数	教 歴 年 月 ( . ) 職 歴 年 月 ( . )
		計	年 月 ( . )
⑪ 過去の選考等の状況	昭和 年 月 日 ( )		
⑫ 高等専門学校における主事・主事補歴	平成 年 月~平成 年 月 (年)		
⑬ 上記以外の高等専門 学校における学生指 導歴等	昭和 年 月~平成 年 月 (年)		

「学科・学系名

」(氏名

)

資料3 - 2 - - 4 ( 2 / 3 )

## 著書・論文等一覧

整理 番号	発表年月日	発表課題名	学科系名	申請職名	単著・共 著の別	使用の 有無	備考
			氏 名				

年代順に記載し，特に重要なもの5編以上「概要」を添付し，番号に を付すこと。

資料3 - 2 - - 4 ( 3 / 3 )

## 著書・論文等の概要

		学科名		申請職名	
		氏名			
整理 番号	発表年月 日	発表課題名	発表学会誌名等	単著・共著の別 共著者名，分担部分等	

( 800字程度で記載のこと )

( 出典 庶務課人事係書類 )

## （分析結果とその根拠理由）

本校における教員採用及び昇任に関しては、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点については、本校では応募資格や提出書類、面接により採用の判断を下している。研究に関しても判断基準となる提出書類を求めている。昇任候補者の選考に関しても同様に内規に明示されている。高専着任後の教育業績及び研究業績について明示された資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

以上のことから、本校における採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められており、かつ、適切に運用されている。

観点3 - 2 - : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

## （観点に係る状況）

本校では、2004年度より教職員顕彰を行っている。これは、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に対して行われるものである（資料3 - 1 - - 6, 資料3 - 1 - - 7）。2004年度に学生指導にかかわる学校運営の業績を、2005年度には教育改善にかかわる学校運営の業績を顕彰した（資料3 - 1 - - 8）。

この顕彰制度に関して、現在改正が検討されている。ファカルティデベロップメント推進委員会の主導で行っている授業評価アンケート（資料3 - 2 - - 1, 資料3 - 2 - - 2）の結果に対する教員の自己採点評価及び公開された授業評価アンケートに基づき、校長が教職員顕彰の対象者を決定する方向で、改正案が検討されている（資料3 - 2 - - 3）。

## 授業担当者の手引きについての連絡資料

-----Original Message-----

From : OZAWA Kenji [mailto: @ .jp]

Sent : Wednesday, January 05, 2005 1:39 AM

To : H16-木更津高専全教員

Subject : H17 授業担当者の手引等の送付 (添付ファイルあり)

平成 17 年 1 月 5 日

授業担当者各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員

小澤健志

『授業担当者の手引 - 平成 17 年度版 - 』等の送付について

このたび、教務委員会、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会、JABEE 認定推進委員会の 3 委員会の承認等を得られましたので、『授業担当者の手引 - 平成 17 年度版 - 』等につき、以下の通り配布いたします。

なお、詳細につきましては各文書に記載してありますので、シラバスの作成等につき、よろしくお願い申し上げます。

1. 同メールの添付ファイルは以下の 3 件になりますが、各利用方法等については、それぞれのファイル中の説明をご覧ください。

(1) H17 授業担当者の手引 H170104 .pdf

(2) H17 シラバス雛形等 H170104 .doc

(3) 保存資料各項目表紙 H170104 .pdf

平成 15 および 16 年度分についても当表紙をご使用願います。

2. 先生方の庶務課前のポストに『授業担当者の手引 - 平成 17 年度版 - 』を冊子状に作成したものを配布いたしましたが、これは「H17 授業担当者の手引 H170104 .pdf」と同一内容になります。
3. 非常勤講師を予定されている先生方への配布のため、前項の『授業担当者の手引 - 平成 17 年度版 - 』を学生課教務係に準備いたしましたので、必要に応じ、ご利用ください。

以上ですが、よろしくお願い申し上げます。

~ 中略 ~

( 出典 FD 推進委員会メール )

授業担当者の手引き

平成17年1月4日作成

# 授業担当者の手引

## - 平成17年度版 -

木更津工業高等専門学校 教務委員会  
Faculty Development Committee  
JABEE認定推進委員会

### 連絡事項

1. 平成17年度の「教育課程表」に掲載される「特別体育」および「特別学修」を含む全ての授業科目について、この手引に基づき「シラバス」の作成を行ってください。なお、シラバスの提出期限等については、以下のようになります。  
当手引においては、「生産システム工学」教育プログラムのことを単に「プログラム」として示すことがあります。

提出期限：平成17年1月28日(金)17時

- 提出先：(1) プログラム関連科目(4年以上)：各学科学系のJABEE認定推進委員  
(2) 上記以外の科目(3年以下)：各学科学系の教務委員

担当者が決定していない非常勤講師担当の授業についても、「担当教員」等の欄を「(非常勤講師)」等とするだけで、他の項目については通常のシラバスと同様に作成してください。

2. 当手引は以下の項目から構成されておりますので、シラバス作成から事後シラバス等作成までの授業を担当される全期間においてご参照ください。なお、必要に応じ「追加情報」等が出されることもありますので、その時には当手引に付加しておいてください。

授業をご担当されるにあたり	1 ページ
シラバスの作成	1 - 8 ページ
「学生による授業評価アンケート」の実施	9 - 13 ページ
中間試験および定期試験の実施	14 - 16 ページ
「授業実施記録」の作成	17 - 20 ページ
「特別学修」について	21 - 22 ページ
非常勤講師の先生方への文章等の配布方法について	23 ページ

～中略～

資料3 - 2 - - 2 ( 2 / 2 )

## 「学生による授業評価アンケート」の実施

各科目において、以下の要領等で「学生による授業評価アンケート」を実施して頂くこととなりますので、よろしくお願いたします。

なお、実施時期が近づきましたら、「アンケート実施要領」により、改めて詳細について説明させていただきます。

### 1. 目的

学生による授業評価を受け、その後の授業方法等の改善に資するため。

### 2. 実施者

全授業担当者(助手を含む全専任教員と全非常勤講師)

### 3. 対象となる授業

「特別学修」等の一般的な形態と異なる授業を除く全授業科目

### 4. 実施時期

前期科目：前期中間試験終了後二週間程度以内

後期科目：後期中間試験終了後二週間程度以内

通年科目：前期中間試験終了後二週間程度以内

受講学生への速やかなフィードバックが可能なこれらの時期での実施をお願いいたします。

上記期間以外でのアンケートの実施も推奨されます(「中間で実施 - フィードバック - 期末で実施 - 改善状況の検証」等)。

### 5. 実施手順

(1) 各科目の特性等により、以下の4種類のうちのいずれの種類のアンケートを実施するのかを決定してください。なお、アンケート形式等の詳細については「8. 補足：アンケートの特質」および後掲の例をご参照ください。

ア) マークシートによる網羅的なもの

イ) 記述式アンケート(既設10設問)

ウ) 記述式アンケート(既設3設問+7自由設問)

エ) 授業担当教員作成のオリジナル形式

(2) アンケート用紙等は、実施時期が近づきましたら学生課教務係に準備いたしますので、必要部数をお取りになり、実施してください。なお、マークシートの場合は、以下のものが別途必要になります(記述式アンケートの場合は、別途必要になるものではありません)。

ア) 「学生による授業評価アンケート収納封筒」(兼「アンケート実施報告票」)

当封筒の裏に実施方法の詳細が示されています。また、当封筒は「実施報  
~以下省略~

(出典 授業担当者の手引き)



資料3 - 2 - - 3

第7回 JABEE 認定・認証評価推進委員会(JABEE 部門) 議事要旨

1. 日 時 平成 18 年 5 月 9 日 ( 火 ) 15 : 20 ~ 16 : 25

2. 場 所 コミュニティールーム G

3. 出席者 鶴田委員長, 岡本 ( E ) 委員 ( 主査 ) , 加藤委員, 内田委員, 齋藤委員, 大坪庶務係長

4. 議 事

~ 中略 ~

3 ) 教育貢献度評価 ( 内田, 齋藤委員担当 )

他高専の教員の評価方法としては, 教員による自己採点評価, 学生による教員の評価が行われていることから上記 2 点について審議した。

について

本校でも自己採点評価を今年度から行う。

について

現在, 各教員が行っている授業評価アンケートを公開する。

上記の件を教務委員会に依頼することとなった。また, 教員顕彰の対象者は校長が各教員の自己採点評価および公開された授業評価アンケートを基に決定するシステムとする。

~ 以下省略 ~

( 出典 2006 年度第 7 回 JABEE 認定・認証評価推進委員会 ( JABEE 部門 ) 議事要旨 )

( 分析結果とその根拠理由 )

本校では, 2004 年度より教職員顕彰を行っている。これは, 教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に対して行われるものである。2004 年 ~ 2005 年度には 4 名の教員の業績が顕彰された。

この顕彰制度に関して, 授業評価アンケートの結果に対する教員の自己採点評価及び公開された授業評価アンケートに基づき, 校長が教職員顕彰の対象者を決定する方向で, 改正案が検討されている。

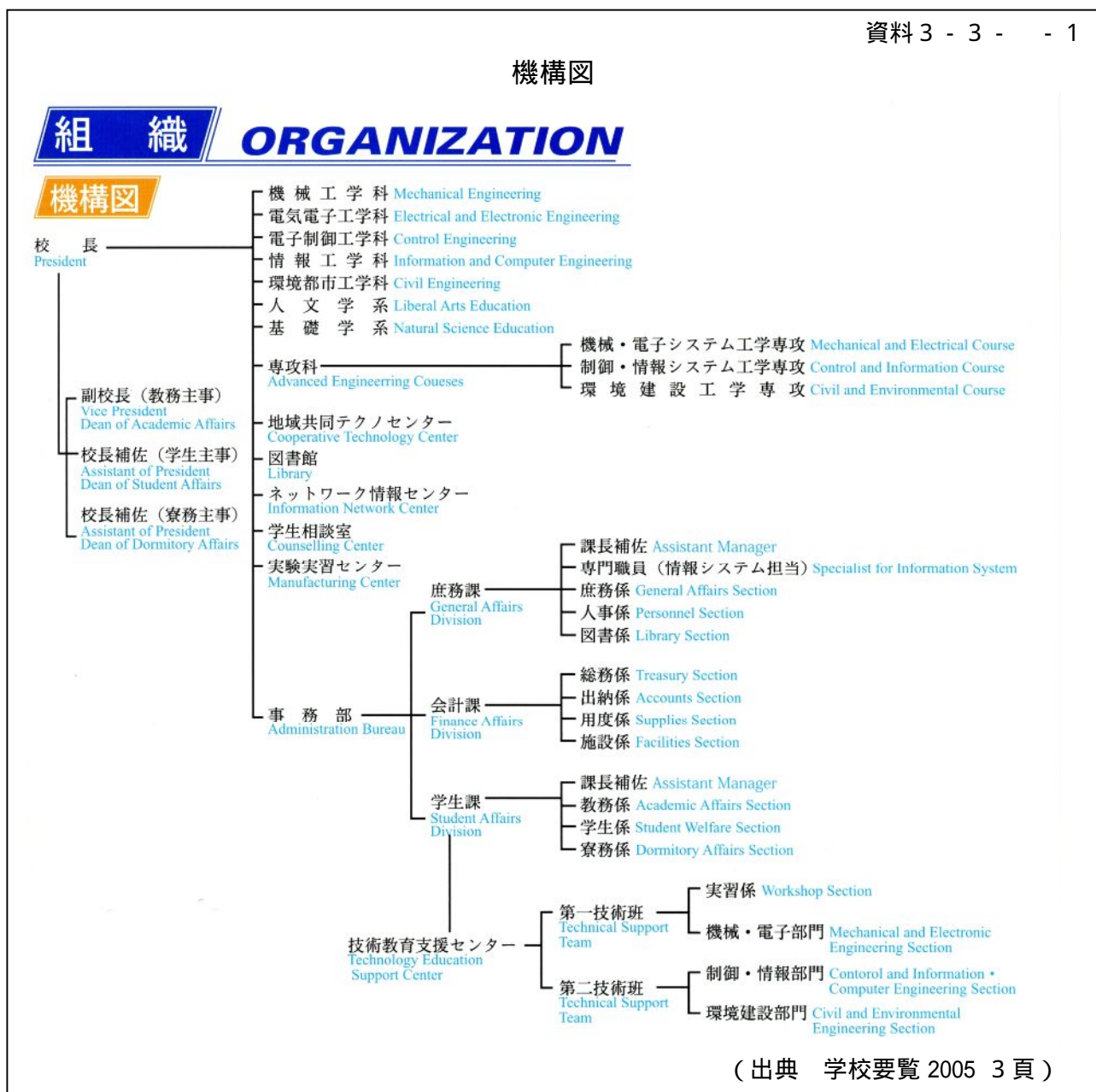
以上のことから, 本校では教員の活動に関する定期的な評価を実施するための体制は整備されているが, 評価体制のさらなる改善を目指して, 現在検討中である。

観点 3 - 3 - : 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料 3 - 3 - - 1 に示した組織内で，主に教育にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係，学生係，寮務係，技術教育支援センターで構成される。これらの事務組織の事務分掌を資料 3 - 3 - - 2, 3 に示す。これらの事務を円滑に行うため，各係長の下に事務職員が配置されている(資料 3 - 3 - - 4)。技術教育支援センターはセンター長(学生課長)と副センター長(技術専門員)の下に第 1 技術班，第 2 技術班を構成している(資料 3 - 3 - - 5)。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し，学科・学系からの依頼(資料 3 - 3 - - 6)に応じて技術教育支援を行っている。

資料 3 - 3 - - 1



資料 3 - 3 - - 2 ( 1 / 3 )

## 木更津工業高等専門学校事務分掌細則

### ( 趣旨 )

第 1 条 この細則は、木更津工業高等専門学校事務組織規程（平成 12 年 4 月 1 日規則第 4 号）第 6 条の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務部の課に置く専門員、専門職員及び係の事務分掌について定める。

### ( 庶務課 )

第 2 条 庶務課にその事務を分掌させるため、専門職員及び次の 3 係を置く。

( 1 ) 庶務係

( 2 ) 人事係

( 3 ) 図書係

～中略～

6 図書係においては、次の事務をつかさどる。

( 1 ) 図書館資料の受入れ、整理及び保管等に関する事。

( 2 ) 図書館資料の収集、選定に関する事。

( 3 ) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関する事。

( 4 ) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関する事。

( 5 ) 図書館資料の寄附受入れに関する事。

( 6 ) 図書購入費の経理に関する事。

( 7 ) 図書の契約に関する事。

( 8 ) 紀要の発行に関する事。

( 9 ) 図書館の広報に関する事。

( 10 ) 学術情報システムの構成に係る関連機関との連絡調整に関する事。

( 11 ) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。

( 12 ) その他図書館に関する事。

～中略～

### ( 学生課 )

第 4 条 学生課にその事務を分掌させるため、専門員（学務担当）及び次の 3 係を置く。

( 1 ) 教務係

( 2 ) 学生係

( 3 ) 寮務係

## 資料3-3-2(2/3)

2 専門員（学務担当）は、次の事務をつかさどるとともに、専門的見地から課長を補佐する。

- (1) 入学者の選抜に関する高度の専門的事項に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び実施に係る高度の専門的事項に関すること。
- (3) 学生の修学指導に係る高度の専門的事項に関すること。
- (4) 学生の学籍に係る専門的事項に関すること。
- (5) 専攻科に係る専門的事項に関すること。
- (6) その他学務に関する事務のうち、上司の命を受けた事項に関すること。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 入学，進級，卒業，その他学生の身分の異動に関すること。
- (3) 入学者の募集及び選抜に関すること。
- (4) 入学選抜の広報に関すること。
- (5) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (6) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
- (7) 授業及び試験に関すること。
- (8) 学生の出席等に関すること。
- (9) 学生の大学編入等に関すること。
- (10) 学外実習に関すること。
- (11) 教科書及び教材に関すること。
- (12) 外国人留学生の受入れに関すること。
- (13) 学生の身分，学業成績及び卒業等の諸証明に関すること。
- (14) 研究生，科目等履修生に関すること。
- (15) 学生課に属する公印の管守に関すること。
- (16) ネットワーク情報センタ - の事務に関すること。
- (17) スペ - ス・コラボレ - ション・システムの管理運営に関すること。
- (18) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (19) その他学生課の所掌で他の係に属さない事務に関すること。

4 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の奨学に関すること。
- (2) 学生の入学料・授業料免除及び徴収猶予に関すること。
- (3) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (4) 学生の健康管理及び安全保持に関すること。
- (5) 学生の就職斡旋に関すること。
- (6) 学生の課外活動及び行事に関すること。
- (7) 学友会，その他の学生団体に関すること。
- (8) 学生の集会，刊行物及び掲示に関すること。
- (9) 学生の施設及び設備の使用に関すること。

資料3 - 3 - - 2 ( 3 / 3 )

- (10) 学生のカウンセリングに関すること。
- (11) 外国人留学生の生活指導に関すること。
- (12) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
- (13) 日本スポーツ振興センターの災害給付に関すること。
- (14) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (15) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (16) 学生便覧に関すること。
- (17) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (18) その他学生の厚生補導に関すること。

5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関すること。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (3) 寮生の厚生補導に関すること。
- (4) 寮生の栄養管理及び保健衛生に関すること。
- (5) 寄宿料の免除に関すること。
- (6) 寮友会に関すること。
- (7) 外国人留学生の寮生活に関すること。
- (8) 教官の学寮宿日直に関すること。
- (9) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他学生寮に関すること。

附 則

この細則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

( 出典 木更津工業高等専門学校規則集 213～217 頁 )

## 木更津工業高等専門学校技術教育支援センター規程

## (設置)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

## (目的)

第2条 センターは、本校技術職員の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営を図るとともにその能力及び資質の向上を図り、もって学生の実験・実習、卒業研究及び教員の教育・研究を支援することを目的とする。

## (組織)

第3条 センターに、次の班を置く。

- (1) 第一技術班
- (2) 第二技術班
- 2 第一技術班に次の係、部門を置く。
  - (1) 実習係
  - (2) 機械・電子部門
- 3 第二技術班に次の部門を置く。
  - (1) 制御・情報部門
  - (2) 環境建設部門
- 4 センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は学生課長をもって充て、副センター長は技術専門員の中から充てる。
- 5 センター長は組織を統括し、副センター長はセンター長を補佐する。
- 6 第1項から第3項に定める班及び部門にそれぞれ班長及び部門リーダーを置き、技術専門員及び技術専門職員の中から充てる。

～中略～

## (業務)

第6条 センターは次の業務を行う。

- (1) 学生の実習の支援に関すること。
- (2) 卒業研究、実験の支援に関すること。
- (3) 学生の課外活動の支援に関すること。
- (4) 公開講座等学外者を対象とした技術教育の支援に関すること。
- (5) 民間企業との共同研究、技術援助の支援及び技術相談に関すること。
- (6) 施設設備及び機械器具等の使用、維持管理に関すること。
- (7) 実験・実習装置等の製作に関すること。
- (8) その他教育・研究の支援に必要なこと。

## (雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は運営委員会の議を経て校長が定める。

## 附 則

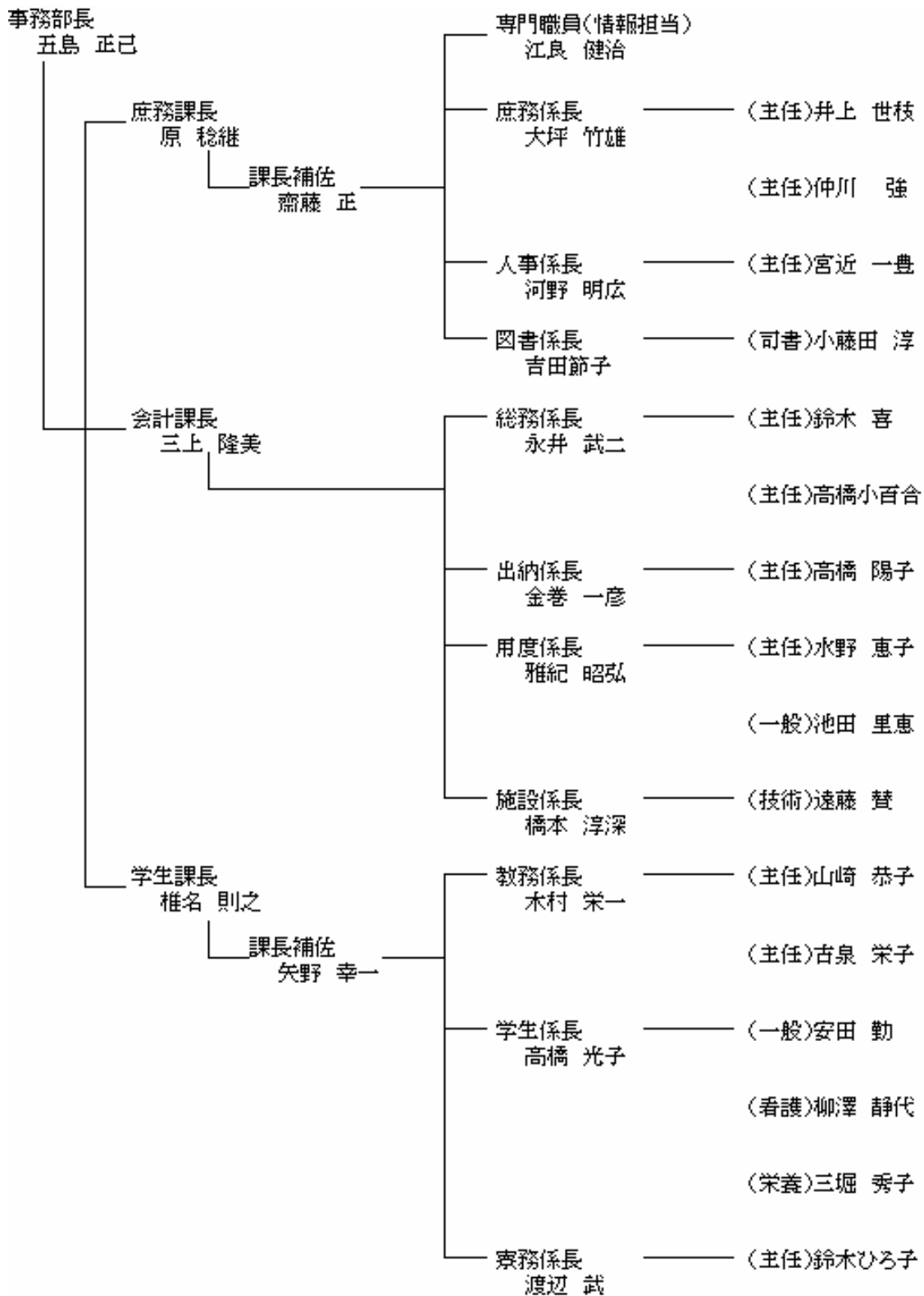
- 1 この規程は、平成10年10月1日から施行する。
- 2 第5条第2号、第5号及び第7号の規定により最初に選出された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

## 附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校規則集 241 頁)

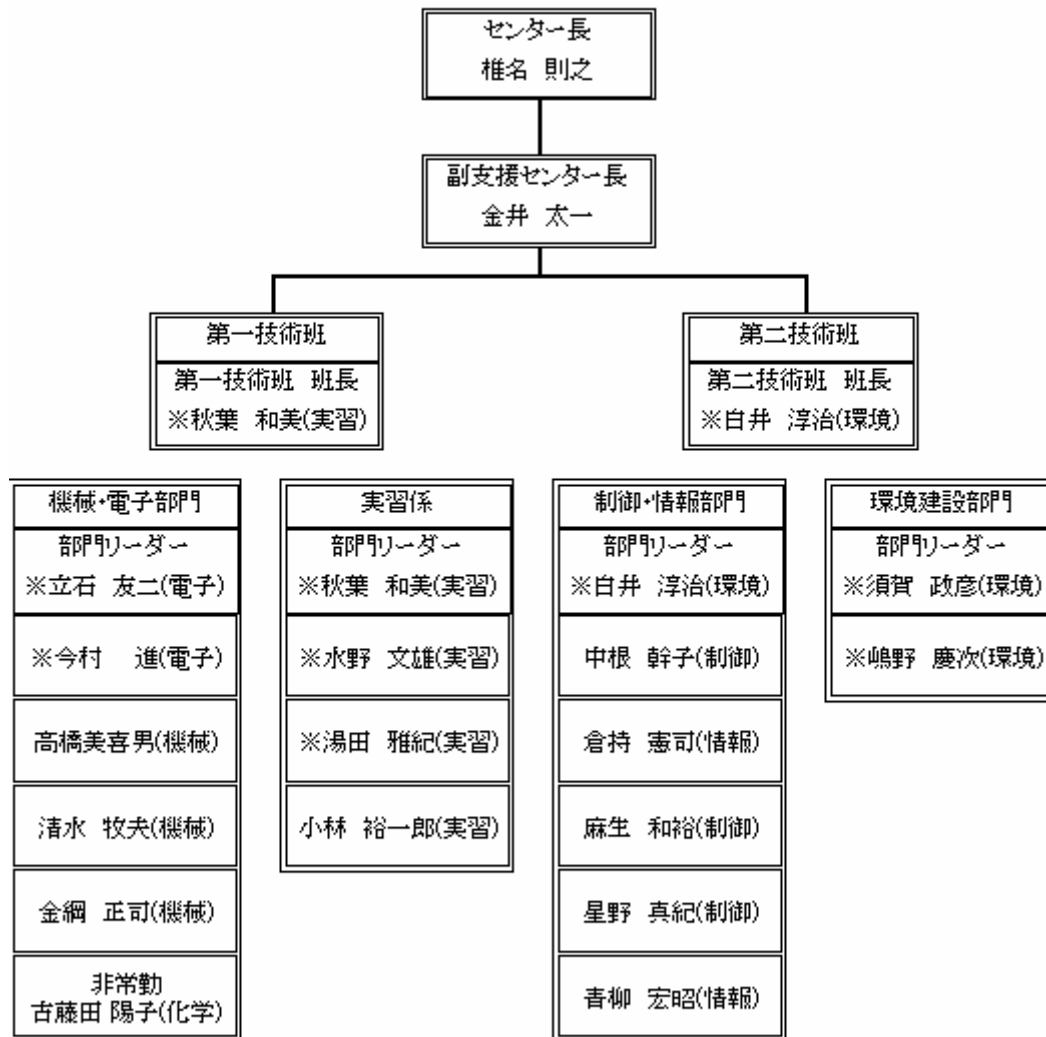
事務組織図



(出典 庶務課人事係資料)

技術教育支援センター組織図

技術教育支援センター組織図



※技術専門職員  
( )内は担当分野の略称

( 出典 技術教育支援センター年報第 5 号 100 頁 )



資料 3 - 3 - - 6

技術教育支援センターへの支援依頼票

支 援 依 頼 票

平成 年 月 日

技術教育支援センター長 殿

受付番号	学 科 名 (課 名)				
	学 科 主 任 等 (課 長 名) 印				
	担 当 教 官 等 (実 施 責 任 者) 印				
(連絡先 内線: )					
授業支援	平成 年度	<input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期			
	授 業 名				
	授 業 日	毎週	曜日	限	
	教 室 名				
	授業開始前の 打ち合わせ等	<input type="checkbox"/> 不 要 <input type="checkbox"/> 要 : 平成 年 月 日 時 ~ 時	計	h	
	準備・後片付 に要する時間	授業前 h	授業後 h	計	h
支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)				
研究支援等 その他 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 共同研究(外) <input type="checkbox"/> 共同研究(内) <input type="checkbox"/> 受託試験 <input type="checkbox"/> 学校行事 <input type="checkbox"/> 実験室等管理 <input type="checkbox"/> 学科等行事 <input type="checkbox"/> 学科事務 <input type="checkbox"/> その他	事 業 名				
	実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			
		定 期	毎週	曜日	時~ 時
	実施場所	不 定 期	h / d		日 間
支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)				
上記業務に 必要な人数 及び技能等	必要人数	必 要 な 技 能 等			
	人				
特に指名する職員があるときはその職員名					

(出典 技術教育支援依頼票)

## (分析結果とその根拠理由)

教育活動にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係，学生係，寮務係，技術教育支援センターで構成される。これら組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校規則集事務分掌細則及び技術教育支援センター規程に明示されている。図書係2名，教務係・学生係各3名，寮務係2名，技術教育支援センター19名の職員が配置されており，教育活動を円滑にするための支援を行うに十分な人員配置である。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し，学科・学系からの依頼に応じて実験・実習等の技術教育支援を行っている。

以上のことから，本校では教育課程を展開するのに必要な事務職員，技術職員が適切に配置されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

観点3-1-～において述べたとおり，専門5学科の専任教員における学位取得率は60%であり，教育目的(2)を達成するために十分な素質を持つ教員構成となっている。また，一般科目を担当する人文・基礎学系でも学位取得率は44%であるのに加え，多くの教育職歴の豊富な教員で構成されている。また，職務経験だけではなく年齢等の全体の教員構成も均衡のとれた配置となっている。

## (改善を要する点)

特になし

## (3) 基準3の自己評価の概要

本校は1学年5学級であり，25人の一般科目専任教員が配置されており，設置基準を満たしている。本校の教育目的を達成するため，一般科目の担当教員を専門性や教育歴を考慮して適切に配置している。

専門の専任教員数は52名(助手8名を含む)であり，高等専門学校設置基準を満たした適切な教員配置がなされている。教育目的(科学技術の修得：準学士課程，科学技術の修得と応用：専攻科課程)の達成には，教員の専門性が重要である。担当教員の学位取得の状況から，専門科目を教授する資質は明らかであり，本校の教育目的を達成するために必要な専門科目と担当教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置となっている。

専攻科科目の担当教員は，全て専任教員である。専任教員の学位取得の状況から，専攻科の科目内容を教授する資質は十分に示されている。よって，教育目的を達成するために必要な専門科目と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置になっている。

本校では教育目的を達成するために，応募資格や提出書類の内容における年齢，教育，研究，実務等の条件を考慮し，採用を行っている。その結果，均衡のとれた教員構成となっている。このような教員構成への配慮，支援，任用状況より，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置がとられている。

教員採用及び昇任の選考方法に関しては，木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。教育上の能力・研究業績という点については，応募資格や

提出書類，面接により判断している。また昇任においては，高専着任後の教育・研究業績が明示された資料を基に候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。よって，採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められ，適切に運用されていると考える。

2004年度より教職員顕彰を行っている。これは，教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に行われている。この様に本校では教員の活動に関する定期的な評価を実施するための体制は整備されているが，評価体制のさらなる改善を目指して，現在検討中である。

教育活動にかかわる事務は庶務課図書係及び学生課である。学生課は教務係，学生係，寮務係，技術教育支援センターで構成される。これらの事務組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校事務組織規程に明示されている。これら事務において総計29名の職員が配置されており，教育活動の支援のために適切に配置されている。